



最上エコボリスの実現  
= 豊かな自然 輝くもがみ =

# 小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

## 小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第25号

平成22年12月24日発行

山形県 最上総合支庁  
建設部 河川砂防課

### 最上小国川ダム検証について

#### 最上小国川ダムの検証の進め方について

平成22年9月28日に、国土交通大臣からダム事業の必要性について改めて検証を行うよう要請があり、現在、国から示された新しい基準にそって検証作業を進めています。

この新しい基準では、県が現在進めている「流水型ダム+河道改修」の代替案として、ダム以外の治水対策を複数案作成し、安全度、コスト、地域や環境への影響等の7つの評価軸（※1）で評価・検討することが求められております。

また、評価・検討を進めるにあたっては、①関係地方公共団体からなる検討の場で検討し、②パブリックコメント（※2）により広く住民から意見を募集し、③学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長から意見を聴いて、最後に、事業評価監視委員会（※3）の意見を聴いて決定することとされております。

県ではこの基準にそって、「対応方針（素案）」を作成し、12月1日に公表いたしました。

その後、12月1日から31日までの間、パブリックコメントを実施するとともに、12月14日（火）に最上町の瀬見小学校を会場に、流域住民

説明会を開催しました。

また、12月中に、県と最上町と舟形町による検討の場となる「第2回最上小国川流域治水対策検討会議」を開催する予定です。

今後、これらの場でいただいたご意見を踏まえ「対応方針（案）」を作成し、最後に、「山形県公共事業評価監視委員会（※3）」からご意見をいただいたうえで、県としての「対応方針」を決定します。

県といたしましては、流域の住民の皆様の安全・安心を第一に考え、できるだけ早い時期に「対応方針」を決定し、国土交通省に報告してまいります。

下の図は、検証作業の全体スケジュールです。

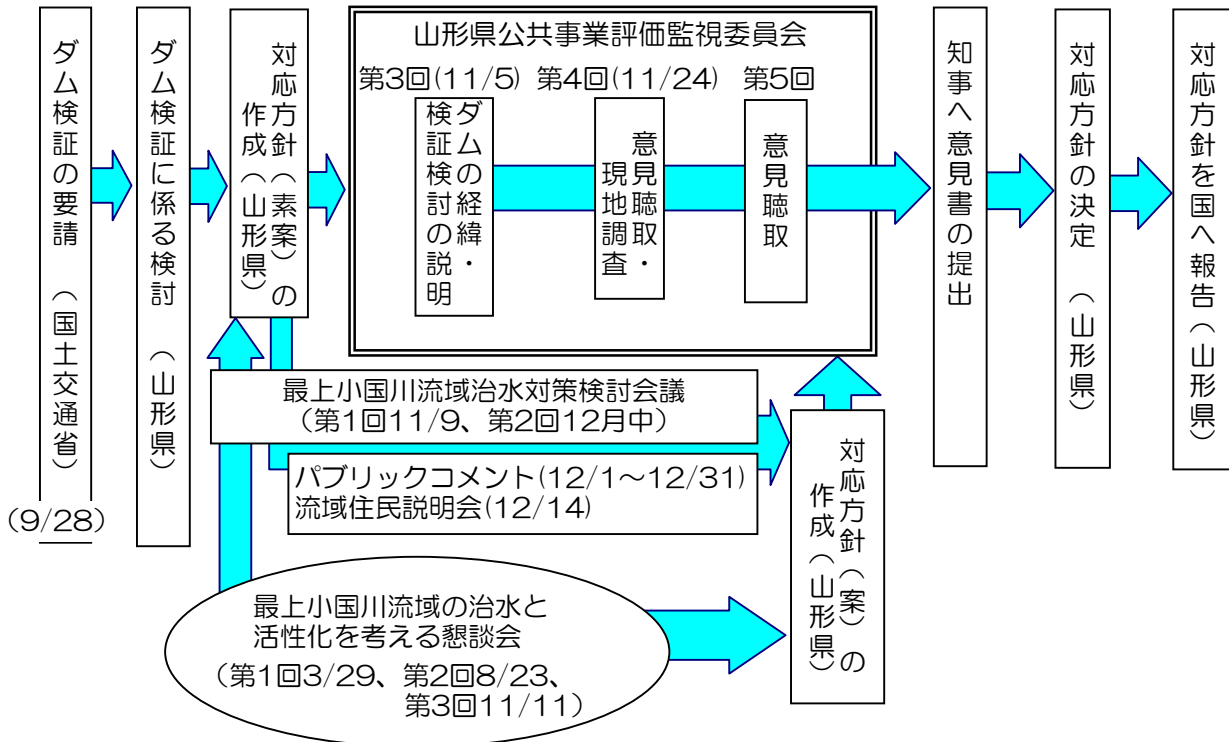
※1 評価軸とは、評価する項目の意味です。

※2 パブリックコメントとは、公に広く意見等を求める手続きです。

※3 山形県公共事業評価監視委員会は、裏ページを参照してください。

#### ダム検証のスケジュール

下図の（ ）書きは開催月日



パブリックコメントで、広く意見を募集しています。詳細については、県HPを参照してください。

[http://www.pref.yamagata.jp/ou/kendoseibi/180006/damseibi/pubcom\\_10.html](http://www.pref.yamagata.jp/ou/kendoseibi/180006/damseibi/pubcom_10.html)

## 最上小国川流域治水対策検討会議を開催しました

11月9日（火）に最上総合支庁において、「第1回最上小国川流域治水対策検討会議」を開催しました。

この会議は、国から示された新しい基準に基づき、関係地方公共団体が検討を行なう場として設置されたものです。

委員は、会長として小松最上総合支庁長、最上町から、高橋町長、伊藤議長、「最上小国川穴あきダム実現と地域活性化に関する特別委員会」の菅委員長、舟形町から、奥山町長、信夫議長、総務振興常任委員会の叶内委員長、それに、総合支庁の野川建設部長です。

以下、その内容の一部を報告します。

- ①最上小国川流域保全協議会が、平成22年10月8日に報告した「中間とりまとめ」について県から説明しました。
  - ②国からのダム事業の検証に係る検討の要請及び検証検討の進め方について県から報告しました。
  - ③意見交換  
上記の①と②を報告し、その後、意見交換をおこないました。各委員のご意見の一部を紹介します。
- 高橋 最上町長  
・安全度の担保やコスト最重視の考え方から、平成20年度採択された「流水型ダム+河道改修（案）」が最適である。  
・最上小国川流域環境保全協議会の中間取りまとめで、水環境についても影響が小さい、また、鮎の生態系についても影響は小さいであろうという報告もいただいた。
- 奥山 舟形町長  
・反対している方々に、丁寧な説明が必要である。  
・安全性、実現性、環境性の課題をもう少しクリアする必要がある。



高橋最上町長



奥山舟形町長

- 伊藤 最上町議会議員  
・漁協との関係、いろいろな環境問題等の話し合いの過程で、環境にやさしい、地域も災害から守られる流水型ダムに変わった経緯がある。
- 信夫 舟形町議会議員  
・舟形町は、「若鮎の里」を前面に出して「町おこし」をしており、小国川の水質の変化による鮎への影響を危惧する方もいる。
- 菅 「最上町議会最上小国川穴あきダム実現と地域活性化に関する特別委員会」委員長  
・ダム予定地の水量は、小国川全体の約1割で、下流に対する影響は少ない。
- 叶内 舟形町議会総務振興常任委員会委員長  
・いろいろな立場の方の理解を得るような努力を行い、20数年かかったダムの問題を早急に解決する時期にきている。

※詳細については、県HP等でお知らせする予定です。

## 山形県公共事業評価監視委員会について

ダム検証については、国からの新しい基準の中に「事業評価監視委員会（※）の意見を聴いて決定する」（表ページ参照）とされ、これを受けて、11月24日（水）に「第4回山形県公共事業評価監視委員会（※）」を開催し、現地調査と審議をおこないました。



川から湧き出るお湯を確かめる委員



最上総合支庁講堂

※山形県公共事業評価監視委員会は、公共事業の効率性等の透明性向上のため、設置されています。  
※詳細については、県HP等でお知らせする予定です。

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課  
最上小国川ダム建設室 佐藤・後藤  
〒996-0002  
山形県新庄市金沢字大道上 2034  
お問合せ先 電話 0233-29-1407  
Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。  
アドレスは下記のとおりです。

[http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami\\_bo/news/news/7314074ogunigawa\\_news.html](http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html)